

## BWI（国際建設林業労働組合連盟）報告書の指摘事項（概要版）

## 1. BWI（国際建設林業労働組合連盟）

ジュネーブに本部を置く国際的な労働組合。約 130 カ国・地域の約 330 の労組が加盟し、ブラジル・リオデジャネイロ等の過去の五輪でも労働条件の改善を訴えた。

## 2. 経緯

令和元年 5 月 14 日に 2020 年東京オリンピック・パラリンピック関連施設の建設現場の労働環境に様々な問題があるとして、BWI が大会組織委員会、東京都、日本スポーツ振興センター（JSC）に改善を求める報告書を送った。

## 3. 報告書での主な指摘事項（要約）

- ・聞き取り調査をした作業員のほぼ半数が雇用契約を結んでいない。
- ・選手村では月 28 日間連続、新国立競技場では 26 日連続で働いている作業員がいた。
- ・一部の作業員は安全保護具を自前で購入していた。
- ・照明が十分でなく、作業員が通報したが、照明は完全に撤去され、通報は被災者でなく組合が行ったという理由で却下された。
- ・外国人技能実習生に資材運搬など単純作業ばかりを強いる。
- ・作業員が失職などをおそれて労働環境の改善を訴えにくい雰囲気がある。
- ・空中に吊り下げられた建築材料を荷下ろしするための適切な人員がないために長時間そのままになり、その下で作業員が作業せざるを得なかった。